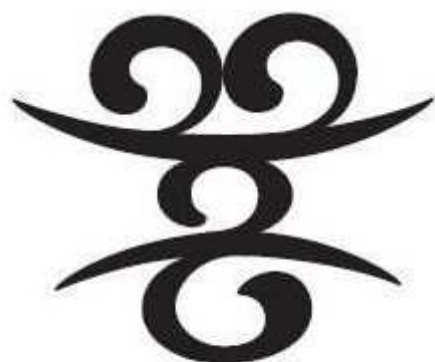


# 愛知県立芸術大学 F D 活動報告書

令和 3 年度



愛 知 県 立 芸 術 大 学  
芸 術 教 育 ・ 学 生 支 援 セ ン タ ー

# 目 次

## 第1章 FD 活動報告書

<b>1-1 美術学部／美術研究科 FD 活動報告書</b>	.....	2
日本画	／ 日本画	
油画	／ 油画・版画	
彫刻	／ 彫刻	
芸術学	／ 芸術学	
デザイン	／ デザイン	
陶磁	／ 陶磁	
<b>1-2 音楽学部／音楽研究科 FD 活動報告書</b>	.....	8
作曲（作曲）	／ 作曲	
作曲（音楽学）	／ 音楽学	
声楽	／ 声楽	
器楽（ピアノ）	／ 鍵盤楽器	
器楽（弦楽器）	／ 弦楽器	
器楽（管打楽器）	／ 管楽器、打楽器	

<b>第2章 授業評価アンケート</b>	.....	14
概要		
実施授業一覧		

# 第 1 章 専攻 F D 活動報告書

美術学部・美術研究科

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
日本画	1 授業評価アンケートの実施	日本画実技 I～IVの実習で下記質問事項のアンケートを実施(前期・後期) 1.どの程度出席したか 2.意欲的に取り組めたか 3.授業内容への興味関心が高まったか 4.「シラバス」は授業への取組みに役に立ったか 5.授業時間は十分だと感じたか  6.教員の話し方、話すスピードは適切だったか 7.教員とコミュニケーションはとれていたか 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか 9.教室・設備については適切だったか 10.専門能力向上に役立ったか 11.総合的に評価すると良い授業だと思ったか 12.良かった点・改善点・要望点等の自由記述	下記の事項について、問題点を客観的に把握するため ・シラバスと授業内容の相互改善 ・教員・学生相互の能力向上 ・教育環境の質的向上	アンケート結果から見えるもの・個々の学生による自己評価は客観性に富み、向上への意欲が見られる。一方教員への要望では目立った記述はみられないが、制作場所などの環境に配慮する知見が得られた
	2 専攻科会議の実施	原則、毎週木曜日の昼食時を(ブラウンバッグ・ミーティング)とし、案件がある場合、事前に議題を準備、SNSにて共有を図るとともに、短時間で効果的な会議を開催した	下記の事項について、情報を共有し、対応を協議するため・課題の進捗状況 ・学生の受講状況	従来実施してきた、専攻科会議にSNSによる情報共有を取り入れることにより、リアルタイムの問題点共有と、効果的な意見提示が可能になった
	3 茶話会の実施	原則半期に一度、空き教室を使用し、学部・大学院各学年の学生代表と教員全員による懇談会を実施	通常とは違った雰囲気の中で、出来る限り学生の本音を引き出し、教員の対応や教育環境の改善に繋げていく	学生各個人からの、授業に対する思いや問題点など一定の意見を聴取することに成功しているが、開催頻度を増やしても良いと考える
	4 外部講師による講座の随時開催	下記の視点から課題を把握し、日本画の学びに厚みをつけるため、外部講師を招き、特別講座を実施している	日本画の基礎・考え方の視野を広げ、学びを深める 多様化する学生のニーズに応える	各講座とも好評であり、学生の積極的な参加態度が見られる。終了後、質疑応答も活発に行われるなど、教員にとっても刺激になる取り組みであるといえる
油画	1 専攻会議の実施とカリキュラム改善	・通常専攻会議は毎週水曜日13:30-15:00に実施(毎月4週目は休み)。 ・出席者:油画専攻常勤教員12名、教育研究指導員(助手長1名)	・授業内容に関する情報共有、意見交換、改善。  ・より良い教育環境や理念、アドミッションポリシー作成への基盤づくり。  ・コロナ禍における授業運営の方法、方針の議論。	・感染予防を前提とし、講評方法をはじめとした授業運営など、引き続き慎重に議論を重ねている。  ・授業内容に関しては、前年度の授業評価アンケート結果を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻全教員で協議し、改善をおこなっている。  ・受験生の人数と質を確保するために、学部入試の出題方法や内容について、検討と協議を重ねながら検証している。  ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に協議を重ねている。
	2 授業評価アンケートの実施	■油画実技 I～IV 油画特別演習 I～IVの8項目について実施した。(前期、後期末)  ■受講した学生についての質問内容 1.出席率。 2.意欲的に取り組めたか。 3.受講後、興味関心が高まったか。  ■授業について質問内容 4.「シラバス」は授業の取組に役立ったか。 5.授業時間は十分だったか。 6.教員の話し方、話すスピードは適切だったか。 7.教員とコミュニケーションはとれたか。 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けられたか。 9.教室・設備については適切だったか。 10.専門能力向上に役立ったか。 11.授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いましたか。  * 学生が特に良かったと判断した点、要望などを自由記述。	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善。  ・授業内容の向上。  ・学生の専門能力の向上と成果。  ・教員の対応能力の向上。  ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善。	■アンケート結果 ・アンケート1, 2, 3, 6, 7, 8, 10, 11は、各学年とも概ね高評価であった。  ・アンケート4 シラバスについては通年で記載することが多いため(各講座についての内容は授業開始前に詳細を発表している)、授業の直接的な参考にはなりにくい。  ・アンケート5 授業時間については、コロナ対策によるアトリエ使用制限に対する不満が多かった。また、アトリエ使用時間が学年によって異なるため、下級生からの不満があった。  ・アンケート9 教室、施設についてのアンケート結果が毎年非常に悪い。 アトリエの狭さや空調、wi-fiの不備などへの不満が多い。特にコロナ禍においては、感染予防の観点から行われる換気によって室内の冷暖房が十分に機能しにくい。  ■自由記述より学生が特に良かったと判断している点 ・教員と個別対話ができることで、作品制作についてしっかりと話すことができる。 ・特別演習では、様々な分野の作家やギャラリストから話を聞くことができる。  ■改善と要望点 ・「アトリエが狭い」「暑い(寒い)」「WiFiがない」など、改善を求める回答が多数あり、アトリエ環境の早期改善が必要である。 ・その他には、教員との連絡が取りにくい。税や著作権、梱包などの実践的な講座をもっと開講してほしいなど。

美術					
専攻 コース	項目	概要	目的	結果	
油 画	3 学生との意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と学生との信頼関係を維持するため、毎月1回、12:05-12:30に学部各学年の代表2名ずつ計8名が集まり、教員との意見交換会を実施している。</li> <li>・意見交換会の内容は授業関連以外にも、施設要望、学校生活の様子など幅広く意見交換をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止。</li> <li>・施設の不備調査と改善。</li> <li>・学生間及び学生教員間コミュニケーションの調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで同様、アトリエの狭さや空調への不満など設備改善要求が多かった。</li> <li>・アトリエ使用時間の延長要望があった。</li> <li>・各学年代表者が同じ場所に集うことで、同学年だけでなく上下間の交流も生まれている。</li> <li>・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などに要望や改善を年間を通じて報告している。</li> </ul>	
	4 作品写真アルバムの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が授業で制作した作品は、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理している。</li> <li>・紙媒体だけでなく、PCやタブレットを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等美術教育としての資料のアーカイブ化。</li> <li>・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料。</li> <li>・講座内容改善のための資料。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や講評時に活用している。</li> <li>・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウイルス対策などについての対応が必要となっている。</li> </ul>	
	5 写真講座、文章講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真講座は2年次に実施し、作品ファイルを作成するために必要な絵画作品の撮影技術などの習得を目指している。</li> <li>・文章講座は3年次に実施し、自作についての確に文章化するための能力を身につけることを目的としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際舞台でも通用するプレゼンテーション用の作品ファイルの作成。</li> <li>・自作や美術作品等を語るための文章能力とコミュニケーション能力の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真講座と文章講座を通じて、ポートフォリオやステートメントを作成する学生が増加し、内容についても質が向上している。</li> <li>・大学卒業後、作家活動や社会活動をする上でも、プレゼンテーション能力は非常に重要であるため、今後も講座を継続していく。</li> </ul>	
	6 学生ファイルの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ファイルとは1年次と2年次の各講座、3年次と4年次のチュートリアル授業及び卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録しておくものである。</li> <li>・全在学生のファイルを油画専攻教員室キャビネットに保管しており、常に教員や学生などが閲覧できる。作品写真アルバムと合わせて利用している。</li> <li>・卒業後の保管期間は5年間としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の作品制作の変遷を、年を追って確認できる。</li> <li>・学生が継続的な問題意識を持って作品制作に望むための助けになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ファイルは学生本人だけでなく、常勤教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。</li> </ul>	
	7 アトリエ・教室等の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉強方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講評会や討論会などの指導にも影響を与える。</li> <li>しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「自然環境の整備不足による学生生活の安全性が守られていない」「WiFiなどのデジタル関連の未整備」「水場環境の不備」という大きな問題点がある。この問題についての解決策を随時、油画専攻で協議し、各種委員会などで報告している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対する改善と拡充。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年を通じて、アトリエの狭さと設備に対する不満が、アンケート結果や学生との意見交換会などから非常に大きいことが、あらためてわかった。</li> <li>・現状施設の重点的改善点 1、制作スペースの確保 2、冷暖房環境の機能強化 3、利用時間の見直し 4、電気容量不足の改善 5、学内WiFi環境の構築 6、水場環境の改善 7、自然環境の整備と安全性確保 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えていく必要がある。</li> </ul>	
	彫 刻	1 授業評価アンケートの実施	彫刻実技Ⅰ～Ⅳの授業評価アンケートを実施した。	授業に対する学生からの率直な意見を収集し、今後の授業運営に役立てる。	各教員が担当する授業ごとにアンケートを実施し、可能な範囲でアンケート結果を専攻内で共有した。このことにより、専攻全体でのカリキュラムの課題が見えるようになり、問題を共有することができた。
		2 専攻会議の実施	隔週水曜日の13時より、2時間程度実施した。以下の項目の議題の検討および報告・情報共有を行った。 ①学生・授業関係 ②専攻運営 ③各種委員会	大学運営に関して情報を共有し、諸課題について協議する。学生の状況を把握し、必要な対応をする。	専攻会議の運営は今年度も引き続き円滑に進めることができた。検討が必要な事柄がある場合には、教員間でよく話し合いをした。専攻会議を通じた教員間のコミュニケーションは大変良好であった。
3 将来計画会議の実施		必要に応じて隔週の水曜日に彫刻専攻会議に続けて実施した。中長期的な視点から今後の彫刻専攻のあり方や方向性について話し合った。2024年から新彫刻棟で授業が行われる予定であり、それを機に大幅なカリキュラム編成をすることを部会を作り検討した。	彫刻専攻の校舎移転に伴うカリキュラムの検討や人員の配置など、彫刻専攻の中期計画について話し合う。	彫刻専攻の校舎移転を見据えた中期的な将来計画についてタイムラインを示し、共通の認識を持つことができた。	

美術				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
彫 刻	4 学生の研究報告書の活用	各授業毎に学生は研究報告書を提出し、これを専攻事務室でファイリングし教員が閲覧できるようにした。研究報告書には学生の作品の写真、研究テーマ、タイトル、研究の概要や成果が記述されている。	学生が作成した各授業毎の研究報告書を専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、4年間を通じた学生の取り組みや学習状況を把握する。	研究報告書の作成を通じて、学生は制作過程や制作意図について言葉で伝える力を身につけている。研究報告書は、授業中や講習会ではうまく伝えられなかったことを後から教員に文章で伝えるためのツールにもなっている。教員は研究報告書を通して、学生の授業における理解度を知られることもできた。
	5 学生カルテの活用	学生の学習状況その他特記事項について教員がカルテに記入し、専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにした。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、学生の学習状況を把握する。	カルテは、欠席が多くなったり何か気にかけるべきことがあったりする学生について、過去に遡って学生の学習状況を確認することができるものである。学生の状況について、教員間での情報の共有に役立てることができた。
	6 ゲスト講師による講義の実施	教員が推薦する外部講師による講義である「彫刻論」を年に2回実施した。これとは別に、オンラインによる特別講義も実施した。	専任教員とは異なる専門領域の講師等を招聘することで、専門的知識の補完を図り、教育研究に役立てる。	彫刻論講師は、加藤翼講師および岡本教生講師を招聘した。学生と教員双方にとって貴重な内容だった。また今後の授業運営の検討にも役立つ多くの参考になる話を聞くこともできた。
	7 ゲスト講師による講習会の実施	ゲスト講師による講習会を実施した。院生展の会期中に1名、卒業修了制作展の会期中に5名の講師による講習会を行った。	客員教授あるいは外部から招聘する特別講師による講習会を行うことで、客観的視点に基づいた講評から学ぶ。	客員教授の金井直教授の他に、卒業特別講習会には土屋公雄客員教授、あいち国際芸術祭のチーフキュレーターの飯田志保子講師、栗木義夫講師、O Jun講師、藤岡勇人講師を招聘することができた。客観的な視点による講評から多くを学ぶことができただけでなく、教育の在り方についての意見交換も行うことができた。
	8 客員教授による特別講義の実施	金井直客員教授による特別講義を年間3回行った。	近現代彫刻史とその主要なテーマについて学びながら、彫刻領域の諸課題について、学生と教員が共に考える。	下記の日程と内容による金井客員教授の講義が行われた。コロナ禍にあっても、対面での講義を行うことができた。学生の中にはこれらの講義から得たことを参照しながら作品制作を行っている者もあり、とても有意義のある講義であることが確認された。
芸 術 学	1 授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを以下の方法で実施した。(対面授業の場合)前期/後期の講義最終回に、学生へユニバでアンケートに回答してもらい、結果を取りまとめた。(オンライン授業の場合)ユニバを通して、学務課から学生あてにオンライン授業のアンケートを掲示、回収した。FD委員会にて情報を共有した。	客観的に評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	今年度はほぼ全ての講義が対面で実施されたが、一部の科目ではオンラインが取り入れられた。授業内でアンケート用紙を配布・回収する形式と比べると、オンライン上でのアンケートの回答率はかなり低く、自由記述欄にも積極的な意見が乏しい傾向にある。学生のニーズを把握するためにもアンケートへの回答をさらに呼びかける必要を感じた。
	2 専攻会議の実施	原則として隔週で木曜日に1-2時間開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況等を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業で必要な対応をした。学生に支援が必要な場合は、保健室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。また、登校が難しい学生について、保健室・学生支援係と専攻教員で連携し、対応に当たった。
	3 療養休職中教員のバックアップ	教員の一名が休職中のため、非常勤の教員を配備するなど指導体制を整えた。	教育の質の維持。	同一専門領域の非常勤の教員2名が講義と学生の研究指導を担当した。他の教員も可能な指導を行い、さらに学内の諸委員会の代行を務めた。これらにより学生の指導や学内運営上の空白を埋めることができた。

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
芸術学	4 教育環境の改善	芸術学棟への引越しと整備を行い、学生の学習環境を整えた。	教育の質の向上。	これまで使用してきた建物はあくまで仮の校舎であった。教員研究室と図書室のある芸術学棟と、学生たちが日常的に使用するアトリエ・講義室を有するプレハブ棟は離れて位置しており、いずれもキャンパスの主要区域からは遠く不便な立地を強いられていた。図書館隣の旧デザイン棟を修繕し、春休み中に専攻の引越しを実施した。教員研究室・講義室・アトリエに加えて3・4年生室やゼミ・院生室を新たに設け、全て同一建物内で整備した。このため学生と教員間の連携も密になり、特に3・4年生は自分専用の学習机を確保することができ学習環境が大いに向上した。WiFiが整えられていることで、IT機器の使用も便利になった。図書館や他専攻とも近距離に位置し、芸大キャンパスの利点を活かした学生生活を送ることができるようになった。
	1 専攻会議の実施	毎週水曜日の16:00より定例のデザイン専攻会議を実施し、FD関連の議題もその中で随時取り上げ、検討を行いデザイン専攻内教員間、教育研究指導員間で検討確認を行い情報共有を図り授業運営や研究活動に生かした。 1.各教員から授業の実施状況や報告、問題点を随時話し合い授業運営やカリキュラムの改善を図った。特に本年度は新カリキュラムとして、今までの授業の見直し様々に変化する社会状況やデザインの環境を踏まえ、R4年度からの1年生を対象に随時、新カリキュラムを毎週検討した。 3.実技授業のみならず、関連科目についても検討を続け、見直し刷新した。	デザイン専攻の授業運営について時代の変化に対応した更なる授業運営、カリキュラムの刷新による充実をはかる。教員間の意思疎通を深め、授業運営の進捗などを共有し、より良い授業が行われるよう検討する。	新たなカリキュラム運営による可能性の検討を行い、状況に即した授業運営が確認し、効果的な授業運営が出来た。デザイン専攻の将来構想に向けて継続的に協議検討を続けている。 本年度も引き続き新型コロナウイルス事象に留意し、より慎重なアトリエの使用、授業運営に尽力した。
デザイン	2 新カリキュラムの実施と運営の検討	領域を撤廃し、引き続き新たな社会連携プロジェクトチームによる授業の充実をはかる。社会のニーズや問題点を解決するための具体的なプロジェクトの発足は学生にデザインの学習やスキルが学内にみに閉鎖的に留まるのではなく、社会との関連性を気づかせ、より身近な現実性のあるデザインのアウトプットを思考させる。	社会や時代の変化に柔軟に対応し、社会の課題や問題解決ができる人材の育成を目的とする。基礎から応用に至るデザイン実技と理論構築の力を養い、より専門的かつ実践的な課題を行う中で、様々な状況に対応できる能力を育む。	新型コロナウイルスの感染状況は続いたが、体調管理や検温の確認を徹底させ、徐々にではあるがオンライン授業と対面授業の併用を行い、授業運営の充実をはかった。徐々にではあるが学生間にも感染状況への適切な対応が見受けられ、換気や体調管理にも十分に注意を払うことが出来、不便な状況の中でも一定の授業の効果が表れてきたと考える。
	3 就職・企業説明会の実施	引き続き新型コロナウイルス感染状況により、各企業の起業説明やインターンも慎重かつ適切な対応をせざるを得ず、学生もそれらに徐々に対応していく事が見受けられた。昨年に引き続きオンラインでの企業説明会などを実施され、専攻内や起業間、学生間でもTeamsやzoomでのオンラインの対応も次第に慣れ、有効かつより安全なコミュニケーションが出来るようになった。	コロナ禍の中での企業への対応が適切に行われる事を目的とした。学生の個性や能力を活かし、社会に役立つ人材になれるよう各教員が尽力した。	昨年度に続き、新型コロナウイルスにより、対面による活動を最小限に抑え、慎重に対応する企業が多数あった。この状況に於いても優良企業に内定をもらう学生や優秀な成績を残す学生もあり、頼もしさを感じつつ、ありがたい事でもあった。
	4 授業評価アンケートの実施	昨年度と同様に学生からの率直な授業評価や感想を得る為、前期、後期それぞれ実技授業、関連科目授業の各授業の事業評価アンケートを行った。	新型コロナウイルス事象が続く状況であるが、例年通り学生からの客観的で率直な授業に対する感想や評価を得ることにより、今後の授業運営や効果的な授業計画に役立てる事を目的とする。	引き続き新型コロナウイルス事象の為、対面による通常の授業は慎重に行われた。昨年に引き続き、教員、学生、教育研究指導員、非常勤講師間で対面を主とし、オンライン授業を組み合わせるなど注意深く、工夫された授業運営が行なわれた。授業評価アンケートでは授業に対する評価は一定の評価があった。
陶磁	1 専攻会議の実施	原則毎週金曜日の11時より、実施された。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図った。 1. 授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 2. 学生の受講姿勢や状況について確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 3. 関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 4. 非常勤講師の授業内容や授業時間数の精査。 5. 各参加委員会からの報告	コロナ禍での授業運営の在り方の検討。学生の受講意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認。教員全員による学生状況の把握。大学の教育環境の整備に努める。入試内容の検討。カリキュラムの改善。	カリキュラム全体の流れや達成目標について検討を重ねた。特に、基礎のカリキュラムは、専門領域に別れた後にも大きな影響があるため、内容について継続的に協議して行くこととした。2021年度から開始した3専門領域の指導の現状を共有しより効果的な指導を図った。初めての総合選抜入試を問題なく実施することができた。WEBオープンキャンパスで専攻紹介を行うことができた。
	2 授業評価アンケートの実施	授業評価アンケートを実施した。	学生から率直な授業評価や感想を得て、今後の効果的な授業運営やカリキュラム改善に生かすことを目的としている。	達成目標について検討を行い、学生の理解力によって次年度のカリキュラムに反映していくこととした。
	3 教育環境の改善	2021年度の準備期間を経て、2022年度から陶磁専攻3年生以上の学生が選択できる新しい専門コース:芸術表現コースを開設し、3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)の各2名の担当がカリキュラムを実行。芸術表現コースにおいて初年度は4名の学生が選択し、設定した4つの課題授業(1、建築と陶磁、2、色彩と陶磁、3、ガラスと陶磁、4、音楽と陶磁)に取り組んだ。	現行の国内外の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	第1課題の建築と陶磁では、陶壁制作を学び、大物づくりの技法を修得した。第2課題の色彩と陶磁では、上絵つけ技法と多様な表現を学んだ。第3課題のガラスと陶磁では、同じギルンワークとしてパートデペール技法を学んだ。第4課題の音楽と陶磁では、音楽学部作曲専攻と合同事業を実施し、互いの作品にインスピレーションを受け、陶磁表現における新たな創作アプローチと視座を獲得した。特に第4課題では、芸術表現コースの教育における可能性を見出すことができた。成果となった陶専攻学生作品は、『Resonancia』と題し、芸術資料館で展覧会、室内楽ホールで演奏会を開催し公のものとした。



美術				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
陶磁	4 産学共同プログラムの実施	大東亜窯業(株)デザインコンペティションや株式会社Euclidとのプロジェクト、Atelier Rootsなどの産学共同の取り組みを行った。	社会性を持つ現場プロジェクトやコンペティションへの参加などで学生たちはものづくりに対するリアルな経験ができ、表現の幅が広がる	大東亜窯業(株)デザインコンペティションについて大東亜の担当者ディスカッションを重ねコンペの要項を確定させ、学生への説明会を行った。1年生から博士課程の学生まで10人が参加し48点のデザインが提案された。自分のデザインが商品化になれる可能性があることで期待が高まる企画であった。結果は2022年6月予定。株式会社Euclidとはタイルデザイナー・職人さんとのコミュニケーションを通して某テーマパークの現場における団子型タイルの制作、参加することができた。 Atelier Rootsとはユーザーオブザベーション手法を取り入れ学生たちがデザイン制作した花器を店頭で展示販売することで流通について考える機会となった。
	5 工房環境の改善	3専門領域のために制作環境を再編し、整備した。	新専門領域の制作環境の整備	3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)の制作環境をよりよくするためにプラン計画を行った。2022年4月から新たなレイアウト環境で制作できる。 安全な工房運用に欠かせない制作場の整備に、教員、指導員が連携して積極的に取り組んだ。

音樂學部・音樂研究科

音楽				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
音楽学	部会の実施	原則として、毎週水曜日(昼休みまたは放課後)に部会を行なっている。必要に応じて、メール、Zoomでの会議も行っている。	学生・院生や授業に関して情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を変えたりすることができた。
	音楽学コース独自の授業レスポンスシートの実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほかに、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを実施している科目がある。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	毎年独自のアンケートを実施している「西洋音楽史概説AB」および「音楽学概説」については、今年度はUNIPAによるオンデマンド方式の授業になったため、その機能を使って学生からの質問や要望に応えた。
	音楽学総合ゼミの実施	この授業は「音楽学コロキウム」という名称の学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設された授業を母体として作られたもので、音楽学コースの学部1年生から大学院博士後期課程の博士論文提出の準備をしている者まで学生、院生全員と教員全員が参加する授業である。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生・院生による研究発表、ゲスト・スピーカーによる研究発表から成る授業である。	国内外の多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	2021年度はコロナ禍のため、国外からのゲストスピーカーの来日が不可能になるなど、総合ゼミは縮小せざるを得なかった。学生による複数回の研究発表のほか、音楽学コース教員による講座を4回と招聘講座を2回(小林英樹名誉教授(美術・油画)「《デルフトの眺望》作品の本質に迫る—鑑賞的視点を踏まえて—」 「絵画というものの奥深さ—レオナルド(受胎告知)《岩窟の聖母》をもとに考える—」)が行われた。
	複数教員による論文指導	音楽学を専門とする学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	卒業論文1本が提出された。
	学生・院生からの相談への対応、指導の実施	オフィスアワー時間以外にも、学生からの相談には柔軟に対応し、きめ細かい指導を行なっている。コロナ禍での自宅待機や遠隔授業等で過度なストレスがかかっているかを適宜、学生に聞くようにした。	学生が充実した大学生活を送ることができるようになるため。	学生が、心身の健康を保ち、勉学にさらにいそむことに役立った。
	コース紀要の刊行	『愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要:ミクスオムーズ』を2006年から刊行し、教員(非常勤講師含む)、大学院生の研究論文、それらに加えて、刊行当該年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨を掲載している。	大学院生、音楽学コース教員(非常勤講師含む)の研究成果、学生の学業の成果を広く知らせるため。	学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
	特別講座の開講	特別講座を開催し、公開している。	学生および地域の方々に、すぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2021年度は日本音楽史を専門とし、日本の伝統芸能を地域との関係において多角的な視点から研究されている寺内直子氏(神戸大学教授)をお招きして実施した。テーマは「名古屋の雅楽と豪商吉田家旧蔵の雅楽器について」であった(コロナ禍のため学外公開せず)。
声楽	専攻部会の開催	毎月2~3回、1回あたり2時間程度実施。参加者は専任教員6名。 主な議題は以下のとおり。 1. 各種委員会より依頼のあった懸案事項の検討 2. 専攻内での懸案事項の検討 3. 専攻の授業と行事の実施に関する事項の検討 4. 個々の学生に関する情報の共有と対応  特に2では、副科の授業内容の見直しや「アンサンブル特講」の活用等、今後のカリキュラム見直しを含めた検討を行っている。	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、声楽専攻としての方針を決定する。 ・学生の受講状況を把握し、学習意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認を行い、出来る限り教員全員が学生の状況、教員の状況を把握できるようにする。 ・個々の学生に関する情報を部会内で共有し、対応が必要な場合にはこれを速やかに、きめ細かく行う。	・各授業の進捗状況を随時把握し、円滑な授業展開が可能となった。
	授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施。	学生から忌憚のない評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	どの科目も概ね学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心が深かったことがうかがえる。自由記述にさらなる改善に向けての参考となる意見が見られた。

音楽	舞台美術会議の実施(学内外のコラボレーション)	大学オペラ公演に向けて、大学院「オペラ総合演習」担当教員(専任2名)、演出担当非常勤講師ならびに舞台美術担当教員(美術学部教員)、外部関係者による会議を実施。本年度は5回の会議を行った。 ●大学オペラ公演の公演方針 ●公演形態(通常公演が演奏会形式公演か) ●具体的な舞台の見取り図を踏まえ、舞台美術プランを決定	●コロナ禍であることを踏まえ、平時以上に安心安全な公演にする。 ●舞台美術の自由闊達なアイデアを具体的なカタチにしていくこと、かつ演出上の諸問題を舞台上の道具配置等の検討により解決していく。	本年度の演目、モーツァルト作曲のオペラ(イデメネオ)は、コロナ禍の中で大変な公演であったが、キャスト同士のディスタンスをとった演出、バルコニーに配置した合唱、ピットでない部分に配置した管弦楽、それに応えた舞台美術の完成度で魅力的な舞台となった。
	舞台衣裳制作での協力(他大学とのコラボレーション)	学部4年「オペラ研究」において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、学芸大学側は舞台衣裳を制作、本学では出来上がった衣裳を着けての試演会の上演を実施。衣裳合わせや採寸時に、演出、歌手、衣裳製作側がお互いに自由闊達な意見交換をし、歌唱時に動きやすく、歌いやすく、かつ演出効果、舞台効果を上げる衣裳づくりを目指した。	二大学間での協力により、双方の授業での成果発表の場とする	双方が実践的な授業を行うために、非常に理想的で、きわめて貴重な機会であり、今後も継続がぜひ望まれる。先の授業アンケートでも「衣裳が豪華だった」との学生の声があった。
	特別講座の実施	年1回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レッスン等を行う。本年度は国内外で活躍中の藤木大地氏(カウンターテナー)によるレクチャー・コンサートを、10月に室内楽ホールにおいて開催した。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聞き、学生たちの今後に役立っている。	藤木氏のすばらしい演奏はもちろんだが、講師自身が学び、実践しているアートマネジメント、セルフ・マネジメントの実際に触れ、学生に大変好評であった。講座後の質疑応答では学生からの質問も多く寄せられ、藤木先生におかれても丁寧にご回答頂いた。大変意義のある講座になったと思っている。
ピアノ	1 中村桃子基金	10月28日(金)電気文化会館ザ・コンサートホールにて小林仁東京芸術大学名誉教授による編曲でショパンのピアノ協奏曲1番、2番、及び の演奏会が開催された。出演は本学学生2名、教授1名、外国人客員教授1名。	教員の日頃の研究成果を発表するとともに、演奏家として自ら音楽表現を行う姿を通して、学生に対する授業での指導を補充する。	出演した学生にとっては大きな経験となった。また客員教授の水準の高い演奏が学生達に与えた影響は大きく、教育上大きな効果があった。
	2 特別講座開講教員	東京芸術大学名誉教授小林仁氏によるショパンピアノ協奏曲の弦楽五重奏版についての講座を開講した。	ポピュラーなショパンピアノ協奏曲をフル・オーケストラではなく、身近に共演しやすい弦楽5重奏による編曲版について、その魅力や価値について理解する。	電気文化会館でのコンサートと合わせて、小林仁氏の編曲意図がよく理解できる催しとなった。
	3 授業評価アンケート	ピアノ合奏、伴奏法・歌曲、伴奏法・器楽曲、室内楽 について実施した	必修授業への取り組み方を学生自身がどのように捉え、どのような目標をもって臨んでいるか、何を反省しているかを調査し、教育内容の改善に役立てる。	概ね授業について熱心に取り組んでいる学生が多く、満足度も高い。
	4 コンサートへの出演	新進演奏家コンサート、愛知県立芸術大学学生によるピアノコンサート、を開催。	教育成果発表、教育内容の向上。ピアノ奏法の研究授業の成果確認。	今年度も中村文化小劇場や天白文化小劇場との共催で「新進演奏家コンサート」を開催し、出演した学生の記帳な経験となった。また、本学と地域社会との連携を継続することができた。
弦楽器コースでは、実技及び室内楽試験、複数の教員で指導を行うアンサンブル授業、公開講座や特別授業、半期毎の授業アンケート、弦部会等、全てをFD活動としてとらえている。				
弦楽器	1 個人レッスン実技試験室内楽試験修了演奏	弦楽器コースでは、入学時及び各学年末に師事したい教員の希望を取った上で担当を決定し、週1回マンツーマンで丁寧に指導を行っている。  演奏による試験は、実技(学部2年生以上公開)及び室内楽(全学年公開)を前・後期各1回ずつ行っており、外国人客員教授を含む弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師が共に学生の演奏を聴き、採点を行う。 試験を公開とする利点として、試験官以外に多数の学生(聴衆がいる)前で演奏することで、より緊張感を持つことが出来る点、他の学生の演奏を聴くことで多くを学べる点などが挙げられる。試験の公開や試験後の講評は今後も継続していく予定である。	演奏を聴けば、その学生が担当教員からどのような指導を受けているかがかなり判り、講評以外の教員による採点や試験後の講評によって、普段のレッスンとは異なる視点からの意見や解釈等を知る事もでき、学生自身は勿論、担当教員にとっても大変勉強になっている。	入学時より卒業・修了まで、学生一人一人が成長していく様子を弦楽器専任教員全員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当だけでなく必要に応じて助言や指導を行っている。教員全員が各学生の氏名やその演奏を全て把握出来ているのは、規模の大きい本学ならではの利点であり、強味であると言える。  R3年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として換気を徹底し、入場人数制限も設けた上で、前期実技試験・卒業試験及び修了演奏を公開で行った。
	2 アンサンブル系授業  *室内楽 学部1・2年次必修 3・4年次選択 修士課程/選択  *弦楽合奏 同上  *オーケストラ 学部2年次以上必修 修士課程/選択	「室内楽」「弦楽合奏」「オーケストラ」等のアンサンブル授業に於いては、効果的に授業を行う為、下記の様な体制で指導を行っている。  (室内楽) 学部では、1グループを教員1名が通年で担当し、じっくりと時間を掛けて指導に当たっている。基本的に1グループに対し複数の教員が指導する事はないが、学部1年次に於いては、教員2名による体制を取っており、グループを半々に分け、教員2名が毎週交代で指導。又、自分達以外のグループのレッスンも見学させる事で、まだ室内楽経験の浅い新入生が、複数の教員から多角的な指導を受けると共に、他グループの演奏と指導を見学する事で、アンサンブルの基礎を客観的に学べる形態を取っている。 修士課程に於いては、「室内楽1」「室内楽2」が開講されている。「室内楽1」は、より専門的な指導を目的とし、1つのグループに対し弦楽器領域複数の教員が並行して指導を行い、「室内楽2」は、全領域の教員の中から師事したい教員を学生の方から指名し、レッスンを受けられるという画期的なカリキュラムになっている。  (弦楽合奏) 室内楽を大型にしたような緻密且つ音楽的なアンサンブルを目指し、複数の教員で分奏を担当、合奏では指揮者以外の教員も適宜アイデアを出し、助言を行いながら指導を行っている。R3年度は、アグスティニエ客員教授にリリストとして参加頂き、学生と共演する形で作品研究も行い、その成果を定期演奏会で披露した。  (オーケストラ) 国内外の第一線で活躍する指揮者のもとで行われる、プロのオーケストラ同様のリハーサルが授業の基本であり、そこへ経験豊かな弦楽器・管打楽器教員が指導スタッフとして加わっている。	複数の教員で授業を行う科目では、学生にとっての利点は勿論のこと、教員同士も互いの指導方法やその成果を見る事が出来、自身の授業法改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、室内楽・弦楽合奏共に、選択履修となる3年次以降も受講希望者は非常に多い。 学年が進むにつれ、学生達のアンサンブル能力は明らかに向上し、目に見えて成長していくことから、現在の指導方法が大変効果的である事が分かる。 授業の成果発表としてR3年度は下記の演奏会を行った。コロナ感染予防の観点から、引き続き観客数を制限しての開催となったが、実施した演奏会はいずれも非常に高い評価を得ており、今後も継続していく予定である。  (室内楽) 2022年2月24日「第20回室内楽の夕べ」(電気文化会館ザ・コンサートホール)  (弦楽合奏) 2022年1月21日「第16回定期演奏会」(三井住友海上らかわホール)  (オーケストラ) 2021年11月26日「第32回定期演奏会」(愛知県芸術劇場コンサートホール) 2022年3月31日名フィル第80回市民会館名曲シリーズ (愛知県立芸術大学十名フィル スペシャル・ジョイント・コンサート)川瀬賢太郎の三大パレエ(日本特殊陶業市民会館フォレストホール)

	3 外国人客員教授の招聘、学外講師による講座等	R3年度は、昨年度に続き長期外国人客員教授としてF.アゴスティーニ氏(Vn.)にご指導頂き、同氏には弦楽合奏定期演奏会に於いてソロ演奏をお願いした。また、短期外国人客員教授としてK.カンギーサ氏(Vc.)を招聘、専任教員との共演で室内楽演奏会を開催した。 2021年10月27日(水) 「ケルンの風Ⅶ ハンガリー作品の夕べ」 2021年11月17日(水) 「ケルンの風Ⅶ 20世紀初頭の作品を集めて」	通常、指導を受けている教員以外の演奏家によるレッスンを受講・聴講することで、別の視点から多くを学ぶことが出来る。	左記「ケルンの風Ⅶ」演奏会は、いずれも大変好評であったが、その他にも、ルドヴィート・カンタ非常勤講師によるチェロ公開レッスン、Cb.首席奏者・文屋充徳氏による特別レッスン等、公開講座や特別授業を行った。特別講師による指導や演奏を聴講し、適宜質疑応答等を行うことは、受講した学生自身は勿論、聴講している学生や教員にとっても大変勉強になり、次年度以降も引き続き行っていく予定である。
	4 専攻会議	教員間の情報共有や授業改善、コロナ感染予防対策等を議題とし、前・後期合わせ14回の部会を行った。更に、メールでも頻りに連絡を取り合い、報告事項の共有や授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	専任教員が、全学生の勉学・生活の両面について現状を把握できるようにする。	全学生の受講状況や生活面に関する情報を共有し、担任が否かに関わらず必要に応じて学生の相談に応じる等、全教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしなが指導に当たっている。近年、大学生活の中で精神的バランスを崩す学生が時折見られるが、そこへコロナ禍の影響もあり、大人数でのアンサンブル授業の際に学生達がストレスを感じている事も授業アンケートで判明しており、今後更に注意を払って見守っていく。
弦楽器	5 授業評価アンケートの実施	前期/室内楽、後期/弦楽合奏授業について、UNIPAシステムを利用したオンラインアンケートを実施した。回答率は前期/44.1%、後期/53.5%であった。	弦楽器コースが「特に力を入れているアンサンブル教育が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	【前期/室内楽】 出席率は「100%出席」が85%、「90%出席」が15%と高い数値を示した。「意欲的に取り組んだか」の問いに対しては、81%が「強く思う」、19%が「やや思う」と回答。 「専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価するよ授業だと思いか」「教員とコミュニケーションはとれていたか」「教員の話し方、話すスピードは適切か」に対しては、回答者全員が「強く思う」か「やや思う」と回答し、「この授業を受けた後、授業で扱われた内容への興味・関心が高まったか」の問いにも、96%が「強く思う」か「やや思う」と回答した。 「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」の問いには、どちらとも言えないという回答が4%見られたものの、96%が「強く思う」か「やや思う」と回答。 「授業時間は十分と感じたか」の問いではやや評価が分かれ、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」と不満足を訴える意見も23%見られた。 「グループ当たりの授業時間をもう少し長く取ることが出来れば…と感じる事も多々あるが、教員数・教室数や授業時間帯が限られている中で、毎年履修希望者は大変多く、実現は難しいのが現状である。しかし、総じてこの授業でも有意義であると感じ、ぜひ履修したいと考えている学生が多数である事は間違いない。 「教室/施設について適切であったか」には、96%が「強く思う」か「やや思う」と答えたものの、「どちらとも言えない」という回答もあり、コロナ禍での感染予防対策/常時換気の影響による室温管理、或いは使用不可となっている部屋がある等への不満ではないかと推測される(自由記述の記入がなかった為、詳細は不明)。  【後期/弦楽合奏】 出席率は「100%出席」「90%出席」が合わせて91%、残り9%は「80%くらい」と回答。 「意欲的に取り組んだか」「専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価するよ授業だと思いか」「この授業を受けた後、授業で扱われた内容への興味・関心が高まったか」の問いに対しては、回答者全員が「強く思う」か「やや思う」と回答。 「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」に対しては、87%が高評価であったものの、「どちらとも言えない」という意見も13%見られた。マンツーマンで行う個人レッスンとは異なり、アンサンブル授業に於いて履修者全員が納得する形で授業を進めることは容易ではないと感じる。 「授業時間は十分と感じたか」「教員とコミュニケーションはとれていたか」「教員の話し方、話すスピードは適切か」等の問いでは、高評価がある一方で「あまりそう思わない」という回答も含まれていた。評価が分かれた原因としては、教員の教員が並行して複数の楽曲指導を行っている為、それぞれの指導方法や時間配分等にどうしても差が生まれる等の理由が考えられる。このアンケート結果を担当教員間で共有し、より充実した授業を目指して改善点を見つけ出すよう努める。 又、施設について不満の意見も見られた。コロナ感染予防対策として常時換気を行わなければならない、室温・湿度管理が非常に難しいのが原因と見られるが、引き続き感染予防には万全を期すと同時に、出来る限りの対策を考えていく。  (自由記述) ・多人数での音の奏で方を掴めた気がする ・現代曲と書てもう少し取り組みやすい曲の方が個人的に嬉しい ・とにかく冬場は寒かった(オペラ合奏室が特に)  概して授業内容を高く評価する回答が多い一方で、今回は幾つかの改善すべき点も見つかった。担当教員は常に創意工夫を凝らし、より良い授業を目指しているが、選曲も含め、学生のアンサンブル能力向上に向けて更に効果的な授業となるよう、教員間の連携をより一層深めながら指導を行ってきたい。
	6 愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団その他	2008年に専任教員5人で「愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。3年間に亘るプラム室内楽全曲演奏プロジェクト終了後も、客員教授や招聘アーティストを交えての演奏会、5月に毎年行っているハッパ公演等、大変意欲的に演奏活動を行い毎回好評を頂いているが、今年度はコロナ禍を鑑み、殆どの演奏会が中止或いは次年度に延期となった。「ケルンの風Ⅶ」は大変好評であった。	教員が音楽に取り組む際の姿勢を、様々な角度から学生に示す。綿密なりハールを行い、本番で演奏する姿を間近で見せる事により、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に教えることが出来る。更に、学生との共演も大変有効な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。	これらの活動により、教員と学生間には勿論、教員同士でも互いに良い刺激を受け合い、音楽界の情報交換も出来る等、広義的な意味で授業での指導力向上に繋がっていると感じている。
管打楽器	管打楽器コース部会	定期的に管打楽器部会を開催している。時によって変わりますが、木曜日12時から14時半までが多い。今年度はコロナの影響でオンライン部会も行なった。今年度は特にオンラインが多かった。①各委員会の情報共有など部会としての意見を語る。②木管楽器、金管楽器、打楽器の学生のレベルなど相性を考えながらオーケストラ、ウインドオーケストラの出演者を決める。③苦労をしいそうな学生と面談する。④コロナ対策に関して話し合う。	コース内のコミュニケーションを効率良くするために定期的に部会をしている。お互いの意見を聞き合ったり、思っている事を自由に出来るような環境を作る事が目的である。	5人の教員の一人一人の意見が大事にされ、明るいつい雰囲気の中で運営と研究どちらも出来ていると思う。
	非常勤講師、コマ数、カリキュラム	毎年非常勤講師に回せるコマ数が減られ、大変苦労している。管打楽器コースには13種類の専攻楽器が存在している。各楽器の実技レッスンの担当教員に専門家を呼ぶ必要がある。それ以外にもウインドオーケストラの指揮者など室内楽のトレーナーを非常勤講師に指導して頂いている。現状コマ数が足りていないのにまま毎年減少が続くと学生の人数を減らすか授業を減らすしか思い付かない。この点に関して毎月議論している。	少ないコマ数を利用して管打楽器コースの教育レベルを保つ事。	かなり厳しい状況にはなっていない。非常勤講師の人数を減らしながら、依頼する講師に与えるコマ数も減らしている。足りていないところ専任がカバーしているが、学生の刺激が制限される。それ以外にも専任の負担が増える。

管 打 楽 器	卒業、修了後の進路に関して	卒業見込みの4年生、修了見込みの大学院2年生の進路予定を把握している。学生のレベル、目標に合わせて卒業後、修了後の面談を行っている。現在新型コロナの影響でオーケストラ、吹奏楽団の入団オーディションが以前に比べて少なくなっている。そのかわりにメディアを使った新しい職業が増えている。音楽、楽器が続けられるように新しい道を探す必要がある。	卒業生が全員進化している現在の音楽業界で成功できるように一人一人に合っている道を見つける事。	今年度の卒業クラスは非常にレベルが高かった。殆どの学生が納得できる進路見つけたように思う。
	アンケートの実地	この2年間は通常通りできた事は殆ど無かった。アンサンブルの合奏をする為、楽器の使い回しができるように、何にしても色々な工夫が必要だった。安全であっても学生が安心して大学で生活できているか確認する為に大勢にアンケートを行なった。	コロナの中で安全な環境ができて学生も安心感も確かめないとけない。アンケートを取って学生の気持ちを図る。	調査の結果で学生の不安と安心感を理解し、上手く対応できたと思う。

## 第2章 授業評価アンケート

## 令和3年度 授業評価アンケート

### 1. はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（FD）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成21年度から、FD専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の2種類のアンケートで実施しています。

この2種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

### 2. アンケートの実施

前期と後期の年2回実施をしました。

前期は、令和3年7月12日（月）から8月6日（金）の4週間、後期は令和4年1月24日（月）から2月18日（金）の4週間の期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイトUNNIVERSAL PASSPORTのアンケート機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

アンケート実施対象の授業は、集中講義と履修登録者5名以下を除くすべての授業（ただし、音楽学部の個人レッスンは除く。また、大学院は、担当教員の希望により実施）から変更し、FD委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択しました。これは、各専攻でアンケートを必要とする授業にシボることを目的とするだけでなく、アンケート実施が困難な授業を事前に把握することが可能となりました。実施が困難な授業とは、個人指導の形態をとっている授業やクラス分けにより少人数で行っている授業などがあります。

このように実施方法は、FD専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

### 3. アンケートの報告

アンケートは教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORTを通して学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。本学専任教員は、集計結果をもとにFD報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。



## 授業評価アンケート（講義）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

選択必須

- ほぼ時間通り
- 延長することが多い
- 開始が遅いことが多い
- 早く終わることが多い
- よくわからない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

## 授業評価アンケート（実習）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業時間は十分だと感じましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

## 2021年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
油画	油画実技Ⅰ		油画専攻教員	26			実習
	油画実技Ⅱ		油画専攻教員	25			実習
	油画実技Ⅲ		油画専攻教員	25			実習
	油画実技Ⅳ		油画専攻教員	27			実習
彫刻	彫刻実技ⅠA(金属)		彫刻専攻教員	10			実習
	彫刻実技ⅡA(石彫)		彫刻専攻教員	9			実習
	彫刻実技ⅠA(塑造)		彫刻専攻教員	10			実習
	彫刻実技ⅡA(塑造)		彫刻専攻教員	9			実習
	彫刻実技Ⅲ	(神田ゼミ)	神田 每実	2			実習
	彫刻実技Ⅲ	(高橋ゼミ)	高橋 伸行	4			実習
	彫刻実技Ⅲ	(森北ゼミ)	森北 伸	4			実習
	彫刻実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		彫刻専攻教員	10			実習
芸術学	芸術学基礎実技ⅠA		芸術学専攻教員	7			実習
	芸術学基礎実技ⅡA		芸術学専攻教員	4			実習
	美学A		金子 智太郎	126	月曜日	3	講義
	日本美術史概説A		本田 光子	77	火曜日	4	講義
	西洋美術史概説A		須網 美由紀	83	水曜日	4	講義
	現代アート概説A		小西 信之	93	水曜日	5	講義
	西洋美術史特講Ⅰ		須網 美由紀	24	水曜日	5	講義
	日本美術史特講Ⅱ		本田 光子	43	水曜日	3	講義
	東洋美術史特講Ⅰ		藤田 伸也	20	金曜日	4	講義
デザイン	デザイン・工芸論A		望月 未来	46	金曜日	3	講義
	デザイン特講A		水津 功	43	水曜日	3	講義
	写真ゼミ	(隔週)	石井 晴雄	32	金曜日		実習
	グラフィックゼミ	(隔週)	佐藤 直樹	31	金曜日		実習
	デザイン研究論A		本田 敬	13	水曜日	3~4	講義
陶磁	陶磁実技ⅠA		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁実技ⅡA		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁実技ⅢA		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁原料学Ⅲ		佐藤 文子	10	月曜日	4	講義
	陶磁史ⅠA		佐藤 文子	14	木曜日	4	講義
	陶磁論A		佐藤 文子	10	金曜日	3	講義
関連	デザイン史A	(隔週・偶数週)	森 仁史	74	金曜日	4~5	講義
	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	38	木曜日	5	講義
	美術解剖学	(隔週・奇数週)	布施 英利	127	金曜日	3~4	講義

## 2021年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時限	講義/実習
日本画	日本画実技ⅠB		日本画専攻教員	10			実習
	日本画実技ⅡB		日本画専攻教員	11			実習
	日本画実技ⅢB		日本画専攻教員	12			実習
	日本画実技ⅣB(卒業制作を含む。)		日本画専攻教員	11			実習
油画	油画実技Ⅰ		油画専攻教員	26			実習
	油画実技Ⅱ		油画専攻教員	25			実習
	油画実技Ⅲ		油画専攻教員	25			実習
	油画実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		油画専攻教員	27			実習
	油画特別演習Ⅰ		油画専攻教員	26			実習
	油画特別演習Ⅱ		油画専攻教員	25			実習
	油画特別演習Ⅲ		油画専攻教員	25			実習
	油画特別演習Ⅳ		油画専攻教員	27			実習
彫刻	彫刻実技ⅠB	(木彫)	彫刻専攻教員	10			実習
	彫刻実技ⅠB	(樹脂)	彫刻専攻教員	10			実習
	彫刻実技ⅡB	(造形)	彫刻専攻教員	9			実習
	彫刻実技ⅡB	(テラコッタ)	彫刻専攻教員	9			実習
	彫刻実技Ⅲ	(中谷ゼミ)	中谷 聡	2			実習
	彫刻実技Ⅲ	(村尾ゼミ)	村尾 里奈	4			実習
	彫刻実技Ⅲ	(竹内ゼミ)	竹内 孝和	4			実習
	彫刻実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		彫刻専攻教員	10			実習
材料研究	(彫刻)	丸山 光哉	9			実習	
芸術学	芸術学総合研究Ⅰ		小西 信之	7	水曜日	2	実習
	芸術学総合研究Ⅱ		小西 信之	4	水曜日	2	実習
	芸術学総合研究Ⅲ		小西 信之	6	水曜日	2	実習
	芸術学基礎実技ⅠB		小西 信之	7			実習
	芸術学基礎実技ⅡB		小西 信之	5			実習
	美学特講Ⅰ		金子 智太郎	14	水曜日	4	講義
	現代アート論特講Ⅰ		小西 信之	45	月曜日	4	講義
	美学B		金子 智太郎	132	月曜日	3	講義
	日本美術史概説B		本田 光子	80	火曜日	4	講義
	西洋美術史概説B		須網 美由紀	83	水曜日	4	講義
	現代アート概説B		小西 信之	93	水曜日	5	講義
デザイン	デザイン・工芸論B		望月 未来	44	金曜日	3	講義
	デザイン特講B		水津 功	47	水曜日	3	講義
	デザイン文化史特講		関口 敦仁	41	水曜日	1	講義
	Webデザイン基礎	(隔週)	森 真弓	30	金曜日	4	講義
	立体空間ゼミ	(隔週)	水津 功	24	金曜日	4	講義
陶磁	陶磁実技ⅠB		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁実技ⅡB		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁実技Ⅲ	(陶芸)	陶磁専攻教員	3			実習
	陶磁実技Ⅲ	(デザイン)	陶磁専攻教員	3			実習
	陶磁実技Ⅲ	(芸術表現)	陶磁専攻教員	4			実習
	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)	(陶芸)	陶磁専攻教員	5			実習
	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)	(セラミックデザイン)	陶磁専攻教員	5			実習
	陶磁特別実技Ⅰ		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁特別実技Ⅱ		陶磁専攻教員	10			実習
	陶磁原科学Ⅲ		陶磁専攻教員	10	月曜日	4	講義
	陶磁史ⅠB		陶磁専攻教員	13	木曜日	4	講義
陶磁論B		陶磁専攻教員	10	木曜日	3	講義	
関連	デザイン史B	(隔週・偶数週)	森 仁史	66	金曜日	4	講義
	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	38	木曜日	5	講義
	美術解剖学	(隔週・奇数週)	布施 英利	127	金曜日	3	講義

## 2021年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

	科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
作曲	和声ⅠA		遠藤 秀安	20	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		遠藤 秀安	23	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		岩本 渡	18	火曜日	2	実習
	和声ⅠA		久留 智之	12	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		久留 智之	18	火曜日	2	実習
	和声ⅠA		山本 裕之	16	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		山本 裕之	22	火曜日	2	実習
	和声ⅠA		鈴木 宏司	24	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		鈴木 宏司	19	火曜日	2	実習
	和声ⅠA		成本 理香	21	火曜日	1	実習
音楽学	音楽学基礎演習		七條 めぐみ	24	月曜日	3	講義
	音楽療法		村瀬 香	52	月曜日	2	講義
	楽書講読(英)ⅠA・ⅡA		畑 陽子	32	金曜日	3	講義
	楽書講読(独)A	(音楽学は必修の選択A、他は選択)	畑野 小百合	18	水曜日	1	講義
	音楽史特講b		畑野 小百合	39	水曜日	2	講義
	音楽学概説		山口 真季子	86	火曜日	5	講義
声乐	音楽芸術言語(伊語)ⅠA		水野 留規	5	火曜日	2	講義
	音楽芸術言語(伊語)ⅡA		水野 留規	7	火曜日	4	講義
	音楽芸術言語(独語)ⅠA		マーティン・ヴィルヘルム・ニース	21	火曜日	1	講義
	音楽芸術言語(独語)ⅡA		マーティン・ヴィルヘルム・ニース	8	火曜日	2	講義
	オペラ重唱A		森 寿美	30	火曜日	3	実習
	合唱ⅠA～ⅢA、重唱A、重唱	(男)	辻 博之	66	金曜日	2	実習
ピアノ	伴奏法・器楽曲A		掛谷 勇三	24	水曜日	1	実習
弦	室内楽(弦)		弦楽器コース教員	59	木曜日	1～2	実習
管打	管打学基礎ⅠA		井上 圭	21	金曜日	2	実習
	管打学基礎ⅡA		杉浦 邦弘	24	金曜日	2	実習
	楽器研究ⅠA～ⅣA		長瀬 正典	14	木曜日	4	実習

## 2021年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	授業コード	科目名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間
作曲	38101201	ソルフェージュA	クラス担当教員		月曜日	1・2
	38101402	ソルフェージュB			月曜日	1・2
	38101801	ソルフェージュC			月曜日	1・2
	38102401	ソルフェージュD			月曜日	1・2
	38104901	和声ⅠB	成本 理香	20	火曜日	1
	38104902	和声ⅠB	遠藤 秀安	19	火曜日	1
	38104903	和声ⅠB	山本 裕之	14	火曜日	1
	38104904	和声ⅠB	鈴木 宏司	24	火曜日	2
	38104905	和声ⅠB	久留 智之	13	火曜日	2
	38105101	和声ⅡB	岩本 渡	18	火曜日	2
	38105102	和声ⅡB	遠藤 秀安	23	火曜日	2
	38105103	和声ⅡB	山本 裕之	21	火曜日	2
	38105104	和声ⅡB	鈴木 宏司	19	火曜日	2
	38105105	和声ⅡB	久留 智之	20	火曜日	2
	38109701	楽式論B	高山 葉子	23	水曜日	4
	38109702	楽式論B	高山 葉子	14	水曜日	5
	38109703	楽式論B	武野 晴久	22	水曜日	3
	38109901	対位法B	岩本 渡	17	火曜日	4
	38109902	対位法B	小櫻 秀樹	10	火曜日	4
	38109903	対位法B	小井 洋明	24	火曜日	4
38117101	スコアリーディングB	小井 洋明	15	火曜日	2	
38121601	楽曲研究B	遠藤 秀安	21	火曜日	3	
音楽学	34200401	西洋音楽史概説B	七條 めぐみ	103	火曜日	3
	38117901	音楽史特講a	小沢 優子	64	金曜日	1
	38118101	音楽史特講c	畑野 小百合	57	水曜日	2
	38119001	ポピュラー音楽概論	東谷 護	50	水曜日	3
声楽	38701501	オペラ研究B	森川 栄子	29	木曜日	3~4
	38107301	オペラ基礎B	磯田 有香	31	木曜日	2
	38107701	合唱ⅠB~ⅢB	永 ひろこ	65	金曜日	5
	38116501	合唱B	永 ひろこ	53	月曜日	3
	38122001	音楽芸術言語(伊語)ⅡB	ロムアルド・パローネ	10	火曜日	4
	38122201	音楽芸術言語(独語)ⅠB	マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	10	火曜日	1
	38107702	合唱ⅠB~ⅢB・重唱B	佐藤 正浩	51	金曜日	2
ピアノ	38109501	ピアノ合奏B	掛谷 勇三	25		
	38110101	伴奏法・歌曲B	松川 儒	24	金曜日	3
	38110301	伴奏法・器楽曲B	北住 淳	25	水曜日	1
	38306801	室内楽1(鍵盤楽器領域)B	北住 淳	5	火曜日	1
弦	38111501	弦楽合奏ⅠB~ⅣB・B	弦楽器コース教員	43	水曜日	3~5
管打	38114901	管楽合奏ⅠB~ⅣB・B	矢澤 定明	98	水曜日	3~5
	38115701	管打学基礎ⅠB	井上 圭	20	金曜日	2
	38115901	管打学基礎ⅡB	杉浦 邦弘	23	金曜日	2
	38116701	合奏B	長瀬 正典	29	木曜日	3



## 2021年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
外国文学A		高田 映介	30	水曜日	4	講義
心理学A		三宮 敦生	70	水曜日	5	講義
人類学A		竹野 富之	29	木曜日	4	講義
数学A		加納 成男	35	月曜日	5	講義
基礎物理学A		三浦 裕一	17	火曜日	4	講義
異文化コミュニケーションA		井上 彩	51	月曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	35	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		鈴木 剛	33	木曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	36	火曜日	4	講義
コンピューター基礎Ⅱb		鈴木 剛	32	木曜日	4	講義
西洋演劇論		大塚 直	43	水曜日	4	講義
基礎生物学A		清道 正嗣	19	月曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅲ		清道 正嗣	29	月曜日	5	講義
英語初級ⅠA		ナイレ・アン・キーナン	50	月曜日	4	講義
英語初級ⅡA		トーマス・オーエン・コックス	25	水曜日	2	講義
英語初級ⅡA		井上 彩	30	水曜日	3	講義
英語中級ⅠA		井上 彩	31	月曜日	3	講義
英語中級ⅠA		井上 彩	28	月曜日	4	講義
英語中級ⅡA		トーマス・オーエン・コックス	63	水曜日	3	講義
英語中級ⅡA		トーマス・オーエン・コックス	27	木曜日	3	講義
英語上級ⅡA		トーマス・オーエン・コックス	17	木曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅠA		大塚 直	55	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠA		橋本 亜季	38	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡA		大塚 直	52	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡA		山本 弘之	41	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠA		大塚 直	31	火曜日	4	講義
ドイツ語中級ⅡA		シュラーラ ヤン グリット	19	火曜日	3	講義
ドイツ語上級ⅠA		大塚 直	12	火曜日	3	講義
フランス語初級ⅠA		フロラン・ペリエ	19	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		水野(角田) 延之	13	月曜日	3	講義
フランス語初級ⅠA		水野(角田) 延之	14	月曜日	4	講義
イタリア語初級ⅠA		水野 留規	20	月曜日	5	講義
イタリア語初級ⅠA		ロムアルド・パローネ	32	月曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡA	(音楽)	パペッテ・マシミアノー	38	水曜日	2	講義
イタリア語初級ⅡA	(美術)	ロムアルド・パローネ	10	火曜日	3	講義
イタリア語中級ⅡA		パペッテ・マシミアノー	21	水曜日	3	講義
美術科教育法A		藤江 充	21	金曜日	4	講義
美術科教育法B		磯部 洋司	15	木曜日	5	講義
道徳教育指導論	(美術・音楽)	三品 陽平	35	月曜日	3	講義
特別活動論	(美術・ピアノ)	清水 克博	45	木曜日	3	講義
特別活動論	(音楽)	清水 克博	64	木曜日	4	講義
教育相談	(音楽)	日下 美輝子	63	月曜日	3	講義
教育原理	(美術・ピアノ)	三品 陽平	45	水曜日	5	講義
教育原理	(音楽)	三品 陽平	70	火曜日	4	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(美術・ピアノ)	宮地 祐司	41	火曜日	5	講義
博物館概論		田中 善明	24	水曜日	4	講義
博物館資料保存論		長屋 菜津子	21	金曜日	3	講義
博物館情報・メディア論		鯨井 秀伸	31	水曜日	3	講義
博物館教育論		藤江 充	10	金曜日	3	講義
考古学		長田 友也	29	木曜日	3	講義
身体運動演習ⅠA・ⅠB・ⅡA		幸田 律	10	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA		武山 祐樹	29	木曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA		山本 祐実	30	木曜日	3	実習
身体運動演習ⅠA		小野 昌子	30	水曜日	5	実習
基本体育A(火・3)		石垣 享	30	火曜日	3	実習
基本体育A(火・4)		石垣 享	28	火曜日	4	実習
基本体育A(火・5)		石垣 享	30	火曜日	5	実習
原典研究(独)A		大塚 直	9	月曜日	3	実習

2021年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間	講義/実習
外国文学B		山路 明日太	23	水曜日	4	講義
心理学B		三宮 敦生	75	水曜日	5	講義
人類学B		竹野 富之	44	木曜日	4	講義
数学B		加納 成男	51	月曜日	5	講義
基礎物理学B		三浦 裕一	10	火曜日	4	講義
身体運動演習 I A~II B		幸田 律	15	木曜日	4	実習
身体運動演習 I A		武山 祐樹	25	木曜日	5	実習
身体運動演習 I A~II B		山本 祐実	9	木曜日	3	実習
身体運動演習 I A・I B		小野 昌子	8	水曜日	5	実習
スポーツ・健康科学B		石垣 享	21	水曜日	4	実習
自由研究ゼミナール II		石垣 享	14	木曜日	5	講義
異文化コミュニケーションB		井上 彩	41	月曜日	5	講義
外国文化史		水野 留規	54	火曜日	5	講義
コンピューター基礎 II b		清道 正嗣	24	火曜日	4	講義
コンピューター基礎 II b		鈴木 剛	34	木曜日	3	講義
基本体育B(火・3)		石垣 享	24	火曜日	3	実習
基本体育B(火・4)		石垣 享	20	火曜日	4	実習
基本体育B(火・5)		石垣 享	18	火曜日	5	実習
基礎生物学B		清道 正嗣	15	月曜日	3	講義
芸術と諸科学	(隔週)	大塚 直	51	水曜日	4	講義
コンピューター基礎 I		大塚 麻里子	33	月曜日	4	講義
コンピューター基礎 I		大塚 麻里子	31	月曜日	5	講義
コンピューター基礎 II c		清道 正嗣	33	火曜日	3	講義
英語初級 I B		ナイレ・アン・キーナン	42	月曜日	4	講義
英語初級 II B		ナイレ・アン・キーナン	22	水曜日	2	講義
英語初級 II B		井上 彩	19	水曜日	3	講義
英語中級 I B		井上 彩	31	月曜日	3	講義
英語中級 I B		井上 彩	20	月曜日	4	講義
英語中級 II B		ナイレ・アン・キーナン	68	水曜日	3	講義
英語中級 II B		スミス マット	18	木曜日	3	講義
英語上級 II B		スミス マット	10	木曜日	4	講義
ドイツ語初級 I B		大塚 直	47	月曜日	3	講義
ドイツ語初級 I B		橋本 亜季	37	月曜日	4	講義
ドイツ語初級 II B		大塚 直	49	水曜日	2	講義
ドイツ語初級 II B		山本 弘之	35	水曜日	3	講義
ドイツ語中級 I B		大塚 直	31	火曜日	4	講義
ドイツ語中級 II B		シュラーラ ヤン ゲリット	16	火曜日	3	講義
ドイツ語上級 I B		大塚 直	11	火曜日	3	講義
フランス語初級 I B		フロラン・ベリエ	17	月曜日	4	講義
フランス語初級 I B		水野(角田) 延之	11	月曜日	3	講義
フランス語初級 II B		フロリアン・エルゴット	18	水曜日	3	講義
イタリア語初級 I B		水野 留規	14	月曜日	5	講義
イタリア語初級 I B		ロムアルド・パローネ	30	月曜日	3	講義
イタリア語初級 II B	(音楽)	パペッテ・マシミアアノ	35	水曜日	2	講義
イタリア語中級 II B		パペッテ・マシミアアノ	19	水曜日	3	講義
教職入門	(音楽)	三品 陽平	77	火曜日	4	講義
教職入門	(美術・ピアノ)	三品 陽平	58	月曜日	5	講義
教育心理学	(美術・ピアノ)	三宮 敦生	44	水曜日	4	講義
教育心理学	(音楽)	三宮 敦生	65	火曜日	3	講義
美術科教育法A		藤江 充/杉林 英彦	21	金曜日	4	講義
音楽科教育法A		柴田 篤志	71	月曜日	5	講義
道徳教育指導論	(音楽)	三品 陽平	47	火曜日	5	講義
美術科教育法C		杉林 英彦	15	金曜日	3	講義
音楽科教育法C		柴田 篤志	66	月曜日	4	講義
教育相談	(美術・ピアノ)	日下 美輝子	49	月曜日	3	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(音楽)	宮地 祐司	72	火曜日	5	講義
生涯学習概論		松野 修	21	火曜日	4	講義
博物館経営論		木本 文平	19	水曜日	5	講義
博物館資料論		宮永 郁恵	32	火曜日	3	講義
博物館展示論	(隔週)	北谷 正雄	20	木曜日	4~5	講義